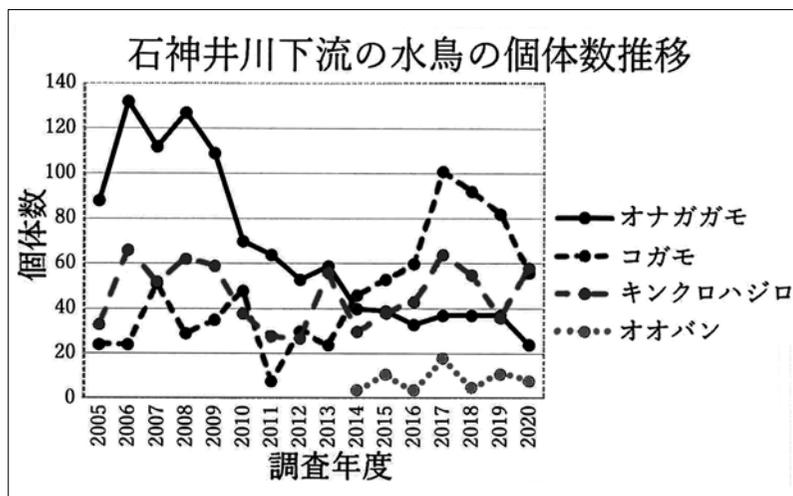


## カモを中心とした個体数調査 石神井川下流・16年の記録を読む

今年も定例の「カモ中心とした個体数調査」に、2005(平成17)年から16年連続して同一場所での調査記録が届きました。調査者は会員の小林博美さんです。調査の対象地は石神井川。板橋区の首都高速5号線下の新板橋(中宿)から、北区の隅田川合流点(堀船3丁目)までの約4km。新板橋～緑橋～観音橋～音無橋～合流点と区間割りして、種類と羽数を調べた記録です。調査日は1月上中旬で、**認めた種類**はドバト・アヒルを加えて**29種**。**総羽数**は不明個体3羽を加えて**6,993羽**という結果です。今回その16年間の記録をまとめてみました。**カモは8種**で、出現個体数の多い順に紹介すると、**オナガガモ**(総数1061羽/平均66.3羽・以下同じ) **コガモ**(463羽/47.7羽) **キンクロハジロ**(745羽/46.6羽) **カルガモ**(424羽/26.5羽) **ヒドリガモ**(177羽/13.6羽) **マガモ**(38羽/3.5羽)が常連で、**ホシハジロ**が2005・2017年に、**ヨシガモ**が今冬初めて1羽記録されています。



カモとともに注目している「水鳥10種」のうち、**ユリカモメ**(947羽/63.1羽)が常連で、**オオバン**(61羽/8.7羽)は2014年から常連に加わっています。他はカワウ(9羽)・コサギ(7羽)と少数です。陸鳥の冬鳥はツグミが準常連といった以外は、アオジ・シメ・シロハラが記録されている程度です。**グラフ**は代表的な水鳥の個体数推移を示したものです。

グラフを見てすぐわかるのは、オナガガモの減少です。次いでコガモが漸増していること。そしてオオバンが最近常連になったことです。グラフには出ていませんが、**ユリカモメ**は2009年以降飛来数は2ヶ台に低迷しています。給餌する人が減ったのが主因です。【研究部・川内】

### 【観察記録をお寄せください】

研究部では、今年目標として、報告書「とうきょうのカモたち・その2」の作製を予定しています。これは、2007年に発行した「とうきょうのカモたち・その1」の続編で、データ集を目指しています。ベースは研究部主導での「越冬期調査」の記録ですが、個人的に長期間調べられた未発表のカモ類や冬鳥の記録も所収したいと考えています。時間をかけたせっかくのデータを“お蔵入り”のままにせず、整理して研究部あてお寄せください。

**標識付きミヤコドリが越冬しています!** 先月号の本ページにアップされたミヤコドリの写真は、会員の田中富夫さんが、**2月2日**に撮られたものです。その後も湾内で越冬していると思われます。その行動を追う絶好のチャンスです。確認したら、日時と場所をお知らせください。